

【機関情報】

社会教育



田島祇園祭屋台歌舞伎でふくしまの復興・元気を発信するプロジェクト
 <田島祇園祭屋台歌舞伎保存会>

CONTENTS

- ◆ 特集 1
 『「ふくしまの心」を育み『ふくしまの未来』へつなぐ』
- ◆ 論説 3
 「復興・創生から考える ふくしまの子どもたちの育成」
 福島大学地域創造支援センター
 副センター長・教授 木暮 照正 氏
- ◆ 輝け！社会教育 4
 室井 伸子 氏（下郷町）、今野 登志子 氏（白河市）
 会津若松市生涯学習総合センター
 福島市松川学習センター、郡山市立日和田公民館
 二本松市立安達太良小学校父母と教師の会
 猪苗代小学校父母と教師の会
 さくら幼稚園保護者会（北塩原村）
 大玉村地域学校協働本部、西郷村地域学校協働本部
 湊地区地域学校協働本部（会津若松市）、小野町図書館
 読み聞かせの会 おはなし「にゃーご」（福島市）
 喜多方市家庭教育支援チーム“もも”
- ◆ 平成31年度・令和元年度
 社会教育関係各種表彰受賞 11
 令和2年度 福島県社会教育施設行事予定 11



「ふくしまの心」を育む自然体験事業



「ふくしまの未来」へつなぐ体験応援事業

<チャレンジ！子どもがふみだす体験活動応援事業！>

特集『ふくしまの心』を育み『ふくしまの未来』へつなぐ

<「チャレンジ！子どもがふみだす体験活動応援事業」事業概要>

～頑張る学校応援プラン（主要施策4：ふくしまの未来に向けた創造的復興教育）実現に向けて～

- ◎ 課題を多く抱えるふくしまだからこそ、様々な探究型・体験型の学びを通じ、子どもたちの「志」を育み、復興・地域創生の担い手を育成する。
 - 子どもの豊かな人間性や生き抜く力を育むための自然体験活動等の推進（心身の健やかな成長）
 - 復興を教材とした社会体験活動・社会貢献活動の推進（交流と発信）

事業1 「ふくしまの心」を育む自然体験事業



目的

東日本大震災時の自然体験の不足や体力低下等を補うため、充実した自然体験活動等へ取り組み、心身ともに健康な子どもの育成を図る。

体験活動の補填

- 震災後の幼少期に外遊びや自然体験活動等の経験が少ないことへの補填。
- 一過性の活動ではなく、進んで行動し能動的な活動を促すアクティブ・ラーニングを支援。
- 探求型・体験型の活動を支援することにより、復興・創生の担い手を育成。

肥満解消・体力向上

- 幼児から小・中学生の肥満出現率の増加に対する課題解決を目的とした体験活動への支援。
- 親子での運動の習慣化や体力向上を図る事業の実施と屋外活動への不安払拭。
- 自ら学び、自ら考えて行動する生きる力の基盤づくり。

心のケア

- 震災後、生活環境や生活習慣の変化により不安を抱えている児童生徒に対して、自然の家を活用し、状態に応じた自然体験や社会体験、交流活動等を継続的に提供。
- 非日常的な活動の中で、自分を見つめ、他者とふれあい、心身共に健康な生活ができるようにするための支援。

ふくしまの3つの課題に対する方策

体験活動の充実（補助事業・主催事業）

1 魅力あるふくしまの自然体験活動事業 ※ (1)は教育課程内行事での実施

- (1) 自然の家等を活用して自然体験活動等及び宿泊を伴う小・中学校への補助。
- (2) 小・中学生を対象とした長期型（4泊5日以上）の自然体験活動を行う団体への補助。
- (3) 自然の家等を活用して、体力向上等を目的として活動する保育園・幼稚園への補助。

※ 自然体験プログラム（雨天プログラム含む）や食事・就寝の生活の決まり等（生活プログラム）が整った施設において、スタッフの指導を受けながら行う活動への補助。

2 心のケアが必要な子どもを対象とした事業

- 自然の家等と各種団体が連携し、不登校等心のケアが必要な子どもたち向けの体験活動事業。



事業2 「ふくしまの未来」へつなぐ体験応援事業

目的

復興に寄与する社会体験活動に取り組むことを通して、自ら考え、判断し、行動を起こす新生ふくしまを担うたくましい子どもたちの育成を図る。



「ふくしまの元気」を届ける体験事業

- 仮設住宅、復興住宅を訪問する活動。
- 被災者・避難者との交流活動。など



「ふくしまの今」を発信体験事業

- 県内外や海外の方との交流を通して、復興をアピールする活動。
- 自分たちの専門性を生かして復興をアピールする活動。
- 地域の良さを学び、学習旅行等で県内外へアピールする活動。など



「ふくしまを創る」起業体験事業

- 生徒等が、様々な体験活動を企画・実施する活動。
- 地域の特産物を用いた、6次化商品の開発・販売を実施する活動。など



復興・再生を教材とした課題解決型学習、アクティブ・ラーニングの支援

- ◎ 子どもたちが
- 1 課題を持つ。
- 2 計画・準備をする。
- 3 実行する。
- 4 振り返る。
- 5 改善し、次につなげる。
- 6 発表し、地域へ広げる。

地域の人々や、関係機関の協力を得ながら実施する

1～6までの段階を踏む補助事業を受け、県が審査

採択事業へ参加する子どもたちを対象に研修会を実施

子どもたちが自ら考え、判断し、行動を起こす社会体験活動を支援

子どもたちを対象とした研修会「**新商品開発特別授業**」
 <令和元年8月20日（火）郡山市立中央公民館で開催>

高校生が新商品開発を手がけることや、新商品が地域に根づいた実践事例からの学びにおいて、発想する能力を伸ばすとともに、問題解決や探究活動に主体的、創造的に取り組み、ふくしまの復興に寄与しようとする姿勢を身につけさせることを目的として開催。



論説「復興・創生から考える ふくしまの子どもの育成」

国立大学法人福島大学地域創造支援センター
副センター長・教授 木暮 照正 氏

以前この「社会教育」（平成28年7月発行の336号）に「新生ふくしまを担うたくましい子どもたちの育成」という題で論説を寄稿させていただいた。その際にも現在の「チャレンジ！子どもがふみだす体験活動応援事業／『ふくしまの未来』へつなぐ体験応援事業」の前身事業である「子どもがふみだす ふくしま復興体験応援事業」について触れつつ、子どもたち自身が行った被災者慰問活動やふくしまの復興状況のPR活動等に感銘を受けたこと、また、それを支える大人たち側に求められる姿勢（「大人側が余裕をもち、子どもたちの声に聞き耳を立て、小さな失敗をその都度受け止めながら、子どもたちのやる気をそがぬような体制作りもまた求められる。そのためには大人の側に相当の余裕と忍耐がなければならない」）について言及をさせていただいた。

前回の寄稿から4ヶ年が経過したことになるが、震災復興から創生へのギアチェンジが求められている今、この体験応援事業を手掛かりに、改めて「ふくしまの子どもたちの育成」について大人として何ができるのか考えてみたい。

令和2年1月に郡山市で開催された同事業の成果報告会に参加させていただいた。その際、とある高校生から具体的な話を伺う機会があったが、この事業の中で海外の同世代の人々と意見交換をする機会があったようで、「自分だけでは着想できないような多様な考え方に触れることができ、自分の考え方も改まった」という趣旨の感想を伺った。発達段階でいうと、このような思考の変化はおおよそ大学期に起こるといわれており、（生物学的な成熟というよりは、地元で過ごすことが多い高校期から、多様な人材が集積する大学期への環境の変化によって誘発されると考えられている）、この事業を通じて認知・思考の発達が先取りされていたようであり、復興支援のために子どもたちが主体的にふみだすことを支えるという趣旨で始まった本事業ではあるが、その過程で「深く考えさせる」ことで、子どもたちの成長促進に直結していることが感じ取られた。

また、すでに震災から丸9年が経過し、直接的な震災経験のない子どもたちが増えている。彼らにとって震災は記憶では

なく、歴史的事実であり、「以前のふくしま」という感覚もなく、今のような（大人側からすれば）やや不可思議な状態がデフォルトである。元の状態に戻し、さらに創生を目指すというような大人側の論理だけに立つのではなく、そのような位置にある子どもの目線から、ゼロから新しいふくしまを創り上げていくという姿勢も必要ではないだろうか。

いずれにせよ、「大人の側に相当の余裕と忍耐がなければならない」ということは変わっておらず、大人の側もまた「深く考え続ける」必要がありそうである。



木暮 照正 氏 プロフィール

2001年10月～
福島大学生涯学習教育研究センター 助教授

2003年4月～
同 副センター長

2008年4月～
福島大学地域創造支援センター
副センター長・准教授

2017年10月～
同 副センター長・教授

専門：認知心理学、教育心理学、成人教育支援
研究ノート：「大学公開講座における地域成人学習者のニーズ把握に関する一考察～学習の方向性に関する動機の視点から～」福島大学地域創造（第27巻、2015年9月）など

2016年6月～
福島県社会教育委員の会議議長

輝け 社会教育

令和元年度社会教育功労者文部科学大臣表彰

社会教育功労者文部科学大臣表彰を受賞して

下郷町男女共同参画推進協議会会長 室井 伸子 氏（下郷町）

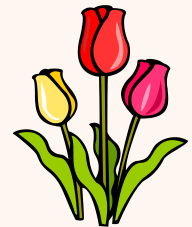
この度、社会教育功労者文部科学大臣表彰を賜り、多くの関係者の皆様に深く感謝を申し上げます。

例えば、30年前、国立磐梯青年の家にて県主催の女性教育の研修会を受講したことが社会教育活動の始まりだったと感じています。当時の日本は、これから迎えるであろう少子高齢化を見据え、生産人口に、女性、外国人、高齢者を確保しなければ社会が成り立たないと考えられていました。そのために、「女性のエンパワーメントの確立」や「ジェンダーフリー」など女性を励まし、奮い立たせる言葉が登場しました。

しかし、現在も、就労しながら家事、育児、介護などに追われている女性がほとんどです。また、重要な政策決定の場所にも、やはり男性の姿が多くあります。

2019年の世界経済フォーラムの男女格差ランキングでも、日本は153ヶ国中121位という残念な結果も出ています。

それでも、日々の暮らしは少しずつ変わってきました。若い夫婦は助け合いながら子どもを育てています。食事の支度や後かたづけも進んでやっています。他者への思いやりや心配りが育っているのだと感じます。これからも性差のない共生社会の実現に向けて、敏感な視点で活動を続けたいと考えております。



令和元年度社会教育功労者文部科学大臣表彰

社会教育功労者文部科学大臣表彰を受賞して

福島県家庭教育インストラクター県南の会会長 今野 登志子 氏（白河市）

この度の荣誉ある受賞に際しましては、誠に有り難く、身に余る光栄に存じます。

顧みますと、2002年に子どもの自己肯定感を育むと共に、親子のより良い関係づくりを目的に、親や大人が心理学に基づくコミュニケーションスキルを学ぶ場として、親業サークル“^{キラキラ}輝け”を立ち上げました。行政機関の後押しもあり、以来18年間活動を続けてまいりましたが、親子の関係改善はもとより、あらゆる人間関係構築に有効なコミュニケーションスキルを磨く場として、県内外8カ所にサークルが誕生しました。

- ・自宅の離れを専用スペースに学習会を開催する 農家民宿
- ・旧家をカフェに改装し、豊かな香りの中で学習会を開催するほか、介護カフェも実施
- ・教職員が同僚と学び合う 等々

それぞれが地域の実情に合った魅力的な居場所として定着し、“姉妹サークル”として繋がり共に学び合っています。

この輪の広がりこそがコミュニケーションの重要性・必要性の証であると確信しています。

21世紀を担い生きていく子どもたちが、自分の思いを大切に、相手の思いも尊重し支え合う、生きる力の根底に確かなコミュニケーション能力を身に付けて欲しいと強く願います。これまでの活動を通じ、何よりも私自身が成長し、社会教育の醍醐味を実感しているところです。今後更にこのネットワークの拡大に努めてまいります。



輝け 社会教育

令和元年度優良公民館文部科学大臣表彰

会津若松市生涯学習総合センターの活動紹介

会津若松市生涯学習総合センター

当センターでは、高等教育機関等との連携・協働による学びの場づくりを進めています。生活様式の変化や情報化社会の進行等により、市民の学習ニーズが多様化・高度化し、公民館単独ではそれらの新たなニーズに対応しきれないことが課題となっていました。また、優れた研究・教育活動を行う地元の会津大学では、より一層の地域貢献



への意欲と、県外から移り住んだ学生と地域との交流不足という課題を抱えています。

公民館には地域とのつながりや人脈、市民への広報力という強みがあります。他方、大学は専門的知識や豊富な人材はもちろんのこと、学問を通して人を教え育てるノウハウを有しています。

公民館と大学とがそれぞれの強みを活かしながら、互いの課題を克服することを目指し、平成28年度から会津大学と協働で実施する「あいづまちなかキャンパス」を開催しました。地元企業や高等学校にもご協力いただきながら、会津藩や野口英世博士といった本市の歴史や偉人をテーマに「哲学」「科学史」講座を行い、一般参加者のほか、大学生や高校生といった若い世代にも多数参加いただきました。

今後も高等教育機関をはじめとした様々な機関とのネットワークを強化しながら、市民の皆様の学習意欲のサポートに努めてまいります。



令和元年度優良公民館文部科学大臣表彰

福島市松川学習センターの活動紹介

福島市松川学習センター

松川学習センターでは、時代の要請や地域の課題を的確に把握しながら、各ライフステージに応じた講座や市民学校を開設しています。幼児と保護者を対象にしたものから、女性、高齢者を対象にした教育や健康講座まで幅広く行っています。

とりわけ、受講生の豊かな体験と個性の伸長を目的として少年教育事業の「自由アート」はプロのアーティストを講師に迎え、近隣の4つの学習センター合同で企画をしており、充実した内容となっています。建物の壁に子ども達が皆でアートを描くなど、異なる学校の児童生徒やボランティア学生との交流は、コミュニケーション能力や互いの良さを認め合う心の育成にもつながっています。



学習センター運営については、地域から選ばれた9名の運営審議委員からなる運営審議会を年6回開催しました。

また、青少年には青少年指導員、女性には女性教育指導員も地域から選任して、活性化と充実を図り、活動内容にPDCAサイクルを機能させるなど、適切な運営に努めており、地域と一体になり、地域における生涯学習の拠点としての役割を担っています。



輝け 社会教育

令和元年度優良公民館文部科学大臣表彰

郡山市立日和田公民館の活動紹介

郡山市立日和田公民館

当公民館がある日和田町では、少子高齢化等により、地域全体で取り組んできた行事の継続が困難となるなど、地域コミュニティの希薄化が課題となっています。

このような中、町内で明治時代中頃まで盛んに行われていた人形浄瑠璃で使用した「高倉人形」(福島県重要有形民俗文化財)が当館に展示されていることに着目し、「人形浄瑠璃をわが町の民俗芸能に！」を合言葉に、地域住民の連帯意識の向上を図り、持続可能な地域づくりを支援するため、年齢・性別を問わず、互いに学び

あい、教えあい稽古する場として「高倉人形・人形浄瑠璃体験ワークショップ」を実施しています。



さらに、稽古の成果発表の場として年度末に発表会も開催しています。

また、当館が働きかけを行い、住民主体の実行委員会が組織され、活動の目的や目標、地域での役割分担が明確になったことで、復活へ向けた取り組みが地域全体へと広がり、活発な活動が行われています。

今後は、住民主体の活動が継続できるよう、次世代を担う子どもたちへの伝承・育成に重点を置き、地域の学校と連携し、学校での鑑賞会等を実施しながら、人形浄瑠璃の特設クラブ化やカリキュラム化へ向け、努力していきたいと思います。



令和元年度優良PTA文部科学大臣表彰

二本松市立安達太良小学校父母と教師の会の活動紹介

二本松市立安達太良小学校父母と教師の会

本校PTAは昭和35年に創立しました。現在は、教養、環境、育成、ベルマーク・広報、学年の5つの委員会で組織され、全会員が各委員会に所属しています。各種PTA行事等にはほぼ全会員が出席しています。主な活動として、まず、全家庭が当番で夏休みの水泳監視の協力を行っていることが挙げられます。それに伴い、心肺蘇生講習会を毎年開催しています。体育館地下にある温水プールで快適なため、ほぼ児童全員が利用しています。

次に、年2回のリサイクル活動を行っていることです。学区内全戸に回覧板を通して協力を呼びかけ、回収作業に参加しています。児童もこの活動に参加し、リサイクルの大切さを感じるとともに、保護者の熱心な働きぶりを目にすることができています。



この活動での収益金は、年3回のスキー教室及び大会の経費に充てられています。その際のスキーのインストラクターとして、元PTA会員、現会員が積極的に参加してくれています。

さらに、毎年学校行事として行っている全校生での安達太良登山にも、ほぼ全家庭が参加しています。



また、夏休みにはあだたら天文台協力会の協力をいただいて、「夏の星空観察会」を学校にある天体観測室で行っています。

学校や地域の施設、自然環境等を生かしながら、子どもの健やかな成長のため、今後とも頑張っていきたいと思います。

輝け 社会教育

令和元年度優良PTA文部科学大臣表彰

猪苗代小学校父母と教師の会の活動紹介

猪苗代小学校父母と教師の会

本校の父母と教師の会が、今年度栄えある「優良PTA文部科学大臣表彰」を受賞できましたこと、大変光栄なことと感じております。

これもひとえに、本校の父母と教師の会設立から現在までの長年にわたり、保護者・学校・地域の方々のご尽力のおかげだと思っております。

本校の父母と教師の会の活動は、本部役員、教養・厚生・広報・安全・環境・地区の6つの専門委員会、1～6年の学年委員で構成される常任委員会を年8回運営し活動しております。

教養委員会は、年2回の教養講座と「母から子への手紙」の審査員として活動しております。



厚生委員会は、運動会、野口陸上大会・スキー大会の設営等を行っております。広報委員会は、年3回発行の広報誌「いなほ」を編集して

おり、地域の方々へ学校活動を報告しております。安全委員会は、毎月校門前にて安全指導を行い、通学路での危険な場所を調べて地図にして児童や保護者に注意喚起を行っております。環境委員会は、奉仕作業を年3回行っております。地区委員会は、年4回の資源回収、夏休みのプール当番、広報誌「いなほ」の配布を行っております。

今後も、このような活動を行いながら、児童の健全な成長を目指して、保護者・学校・地域が協力しながら、PTA活動に努めてまいります。

令和元年度優良PTA文部科学大臣表彰

さくら幼稚園保護者会の活動紹介

さくら幼稚園保護者会（北塩原村）

本園保護者会が、栄えある「優良PTA文部科学大臣表彰」を受賞できましたこと、大変うれしく思います。これまでにいただいた、多くの方々の支えに心から感謝申し上げます。

本村では、長きに渡り学社連携事業を行っており、地域と幼小中、関係機関との連携体制が整備されています。このような中で、本会及び祖父母等が地域資源として活動し、広がりのある豊かな活動を園児に提供できたことが、今回の受賞につながったと考えております。

本会では、「学社連携活動」「園との共催事業」「園へのサポート事業」「12年間の育ちを見据えた取組」などを行っておりますが、中でも特徴的な活動として、「まめっこクラブ」というものがあります。



保護者や祖父母、学校の応援団、地域おこし協力隊、公民館、そして農大生など多種多様な異世代交流を図りながら、あずきの栽培と収穫、試食などを行う農業学習です。作業を通して、温かい心のふれあいがたくさんでき、コミュニケーション能力も高まり、ふるさとを愛する心や人に感謝の心が育ちました。

今後とも、このような地域に根ざした協働活動を大切にしながら、幼稚園をよりよくサポートする保護者会活動に努めてまいります。



輝け 社会教育

令和元年度「地域学校協働活動」推進に係る文部科学大臣表彰

大玉村地域学校協働本部の活動紹介

大玉村地域学校協働本部

この度は、栄えある「地域学校協働活動」推進に係る文部科学大臣表彰を受賞させていただきました。本事業を推進していただいた沢山の方々のご指導とご協力に心より感謝いたします。

大玉村地域学校協働本部は、平成29年度にこれまでの学校支援地域本部事業と放課後子ども教室事業に、協働・



連携事業、学習支援事業、家庭教育支援事業を新たに加えスタートしました。

本事業は、地域と学校、家庭との協働を目指し、各事業の各コーディネータ

ーを中心となって、様々な活動をダイナミックに展開してきました。

また、おおたま学園コミュニティ・スクール委員会と地域学校協働本部のパッケージ（両輪）により行われた「おおたま・オータム・フェスタ」では、幼・小・中学校の異学年と地域団体が、一体になって、昔遊びや登山、ミニ運動会、スコアオリエンテーリングなどを体験し、「地域とともに歩む学校」を実現することができました。

今後もこの受賞を励みに地域・学校・家庭との協働・連携を密にし、「大玉らしさ」を活かした地域学校協働活動を、豊かな展開をさせるために尽力してまいります。



令和元年度「地域学校協働活動」推進に係る文部科学大臣表彰

西郷村地域学校協働本部の活動紹介

西郷村地域学校協働本部

「西郷村地域学校協働本部」が文部科学大臣表彰を受賞できましたことは、大変光栄なことと感じております。

本事業は、平成29年度より県のモデル地区として、3年間取り組んできました。今回の受賞は、



学校や地域の方々が連携・協働で子ども達の成長を支えてくれた結果だと感じています。

主な活動として、学習支援活動、地域活動・ボランティア活動の二つの柱を中心に事業を展開してきました。学習支援活動「ステップ・フリー学習教室」は、地域の方を学習指導者として、①小学生を対象とした放課後学習教室。②児童館での学習指導。③夏・冬休みの学習教室。④中学生を対象とした土曜学習教室。これらを積極的に実施してきました。

教室の場所を多様化することにより、多くの参加者を得て実施することができました。

地域活動・ボランティア活動は、「地域のために自分たちは何ができるか」を考え、活動を実施しました。

一つは、地域に出向いての清掃活動や村文化センターでの清掃活動を行いました。もう一つは、各小学校の運動会や村行事の係補助として活動しました。どちらの活動も「地域のために少しでも貢献したい」という思いが根底にあります。

今後も、地域から学校への一方向の活動支援だけではなく、学校や家庭、地域が双方向に連携・協働し、教育の充実や地域コミュニティの活性化につなげていきたいと思っております。



輝け 社会教育

令和元年度「地域学校協働活動」推進に係る文部科学大臣表彰

湊地区地域学校協働本部の活動紹介

湊地区地域学校協働本部（会津若松市）

湊地区では平成 28 年度に学校支援事業が始まっています。それ以前からも読み聞かせや通学時の安全確保などに地域の方がボランティアとして活動していましたが、コーディネーターにより支援が円滑化し範囲が拡大しています。

主な活動は、毎月「湊応援隊」として住民が誘いあって学校に行くボランティアの日が決められています。また、野菜の植え付け、収穫体験などの授業補助に加えて、講師を地域の高校生、大学生が務める長期休業中の学習会を開催しています。



さらに平成 30 年度から「放課後子ども教室」が始まり、活動内容に地域に関する題材を取り込むとともに、活動指導員及び安全管理員を主に地域の方々が務めています。

これらの活動を通して地域と学校の相互支援と住民のきずなづくりとともに、子どもたちが地域に誇りを持ち、地域社会、家族、そして自分自身を大切にしていける環境づくりを目指しています。

平成 31 年度子供の読書活動優秀実践校・図書館・団体（個人）の文部科学大臣表彰

小野町図書館の活動紹介

小野町図書館

この度、平成 19 年に続き 2 度目の文部科学大臣表彰を拝受することができましたのは、ひとえに当館の読書活動推進事業にご協力いただきました多くの皆様、そして当館をご利用いただいている地域の皆様のおかげであると職員一同心より感謝申し上げます。



小野町図書館は平成 5 年 10 月に、文化複合施設「小野町ふるさと文化の館（図書館・美術館・郷土史料館・丘灯至夫記念館）」として開館いたしました。

施設の特性を活かし、美術館との連携で絵本原画展、郷土史料館との連携で昔話の語りなど様々な活動を行っております。

また、平成 27 年 12 月には条例が制定され、町を挙げて読書活動推進に取り組んでいるところでございます。

小学 1 年生に本をプレゼントする「どくしょスタート」、子どもたちに当館の仕事を体験してもらう講座、町内の小中学校や幼児教育施設、老人福祉施設でのお話し会、定期的な読書案内の発行やテーマに沿った本の展示コーナー、毎年年始には本の福袋など、あらゆる世代の方々に楽しんでいただける図書館を目指して活動しております。

これからも当館の特性を活かした読書活動推進事業を展開して参りたいと考えております。



輝け 社会教育

平成31年度子供の読書活動優秀実践校・図書館・団体（個人）の文部科学大臣表彰 読み聞かせの会 おはなし「にゃーご」の活動紹介

読み聞かせの会 おはなし「にゃーご」（福島市）

本会は、平成9年4月に地域住民の強い要望で実現した南向台小学校の開校時、PTAによる図書室整備のボランティア活動を契機に、学校からの要望により、平成11年から「おはなし会」として読書ボランティア活動を開始しました。平成18年から読み聞かせの会おはなし「にゃーご」と命名し、令和元年に20年目を迎えました。

現在の会員は10名です。皆、子どもたちのキラキラとした「輝くひとみ」が大好きで、子どもたちからエネルギーをたくさんもらっています。

活動は、毎月1回（水曜日）の定例会、さらに12月7日の「大人と子どもの遊びの集い」における読み聞かせ（紙芝居など）



12月18日のクリスマス会（全学年を対象としたお楽しみ会）を実施しました。

また、本会は、南向台小学校からスタートした団体ですが、平成22年度からは福島市立青木小学校においても年間3～5回の読み聞かせを実施しています。

これからも、子どもたちの「輝くひとみ」を大切に、心豊かな子どもに育てる手助けになれるといいなと会員全員考えております。

そして、細く長く、ずっと続けていけるよう努力していきたいと思っています。「文部科学大臣表彰」誠にありがとうございました。



令和元年度「家庭教育支援チーム」の活動の推進に係る文部科学大臣表彰

喜多方市家庭教育支援チーム“もも”の活動紹介

喜多方市家庭教育支援チーム“もも”

文部科学大臣表彰を受賞できましたことは、光栄であることと共に、今後の活動に向けて、身の引き締まる思いがいたします。

“もも”は、行政に属しておらず、地域の世話好きなおばさん達の立場で、ボランティアで子育て中の保護者の応援をしております。

「子育て頑張っているね。どうしていいかわからないんだね。一緒に考えてみよう。」と相談を受けたり、「今度こんな講座をやるから、来てみて。託児もあるから。」と年4回企画したり、保護者同士、保護者と私達の交流を図っています。



保護者を待っているばかりでなく、訪問して声をかける（ももビジット）事業も始めようと計画を立て、行政にそのヒントを求めたこともあったのですが、個人情報への壁につき当たり、事業を進める難しさも感じました。

令和2年3月4日には「喜多方市をよく知ろう。～ハザードマップ編～」の講座を開催予定で、

「大きなことはできないけれど、小さなことからやる（行政事業のすきまを埋める）。大切な情報を同じ地域に住む届きにくい保護者に届ける。話したい事があったら、“もも”のおばさんが聞くからね！のメッセージを届ける。」等を目指し、今後も活動を続けていく所存です。



平成31年度・令和元年度 社会教育関係各種表彰受賞

表彰区分	被表彰者氏名・団体名	受賞月日	表彰者
社会教育功労者	下郷町男女共同参画推進協議会会長 室井 伸子 氏(下郷町) 福島県家庭教育インストラクター県南の会会長 今野登志子 氏(白河市) 国立磐梯青少年交流の家研修指導員 中村 瑛子 氏(会津若松市) 国立那須甲子青少年自然の家研修指導員 西坂 雄治 氏(西郷村)	2月14日	文部科学大臣
優良公民館	会津若松市生涯学習総合センター 福島市松川学習センター 郡山市立日和田地域公民館	2月14日	文部科学大臣
優良PTA	二本松市立安達太良小学校父母と教師の会 猪苗代小学校父母と教師の会 さくら幼稚園保護者会(北塩原村)	11月15日 11月15日 8月10日	文部科学大臣
地域学校協働活動	大玉村地域学校協働本部 湊地区地域学校協働本部(会津若松市) 西郷村地域学校協働本部	12月2日	文部科学大臣
子供の読書活動優秀実践図書館・団体(個人)	【図書館】小野町図書館 【団体】読み聞かせの会 おはなし「にゃーご」(福島市)	4月23日	文部科学大臣
家庭教育支援チーム	喜多方市家庭教育支援チーム“もも”	2月18日	文部科学大臣
社会教育功労者	西郷村社会教育委員副委員長 橋場八千代 氏 (前)北会津地区社会教育委員連絡協議会会長 森 武久 氏	11月1日	福島県教育委員会
功績顕著な団体・施設	【団体】郡山市立栃山神小学校父母と教師の会 郡山市立芳山小学校父母と教師の会 白河市立東北中学校PTA 【施設】福島市飯坂学習センター 郡山市立行徳地域公民館 泉崎村立中央公民館 会津若松市湊公民館	11月1日	福島県教育委員会
全国社会教育委員連合	西白河地区社会教育委員連絡協議会 今野登志子 氏 両沼地区社会教育委員連絡協議会 菊地 正孝 氏	10月24日	(一社)全国社会教育委員連合
日本PTA全国協議会	【団体】田村市都路小学校父母と教師の会 いわき市立三和小学校PTA 【個人】前福島県PTA連合会会長 譽田 憲孝 氏 前福島県PTA連合会副会長 齋藤 徹 氏 前福島県PTA連合会副会長 増子 国安 氏 福島県PTA連合会副会長 箱崎 洋一 氏	11月15日	(公社)日本PTA全国協議会
東北地区社会教育委員連絡協議会	小野町社会教育委員 富瀬 政秀 白河市社会教育委員 鈴木 雅文 棚倉町社会教育委員 大竹 盛栄 三島町社会教育委員 五十嵐純子 南相馬市社会教育委員 若月陽恵子 双葉町社会教育委員 小野 紀子	10月17日	東北地区社会教育委員連絡協議会

令和2年度 福島県社会教育施設行事予定

福島県立図書館	福島県立美術館	福島県立博物館	福島県自然の家
○ふくしまを知る連続講座と関連展示 ①福島県文化財センター白河館学芸員による講座(6月) 「題目未定」 6月4日(木)～7月2日(木) ②福島県歴史資料館学芸員による講座(11月) 「題目未定」 11月5日(木)～12月3日(木)	○ブダベスト国立工芸美術館名品展 3/24(火)～5/10(日) ○もう一つの江戸絵画 大津絵展 5/19(火)～6/28(日) ○近現代版画の名作展 2020 7/11(土)～8/30(日) ○移動展 喜多方市 10月～11月(予定) 白河市 令和3年1月～2月(予定)	○震災遺産を考える 2/11(火)～4/12(日) ○ふくしまの旅 4/29(水)～6/28(日) ○会津のSAMURAI文化 7/18(土)～9/13(日) ○発掘された日本列島 2020 10/10(土)～11/15(日) ○震災遺産を考える 令和3年1/16(土)～3/21(日)	○郡山自然の家 春のオープナー5/31(日) ○会津自然の家 春のオープナー5/24(日) ○いわき海浜自然の家 春のオープナー5/17(日) ※その他詳しくは、各自然の家のホームページをご覧ください。

編集後記

県教育委員会の「頑張る学校応援プラン」の施策の一つにある「ふくしまの未来に向けた創造的復興教育」を実現させるために、幼少期から高校生までの子どもたちが、学校教育も含めて様々な社会体験をし、一人一人が将来への目標を持って未来を生き抜いていく力を身につけることこそが、復興・地域創生の担い手を育成するために必要なことと考えております。今後も外部団体や他部局との連携を図りながら「子どもの成長が見える教育」を推進していくことで、「ふくしまの心」が生まれ、「ふくしまの未来」につながっていくよう福島の子どもたちを継続して応援していきます。またこの度、大変お忙しい中、第340号「社会教育」に御執筆いただきました皆様に対し、心から感謝申し上げますとともに、読者の皆様がそれぞれの地域や立場でより一層活躍されることをお祈りいたします。



令和2年3月吉日発行
社会教育 No. 340
編集 社会教育課
発行 福島県教育委員会
福島市杉妻町 2-16